

News Release

2015年8月31日

報道資料

業界初^{※1}、自動車向けビーコン端末を活用したテレマティクス・ソリューション「クルマDEビーコン サービスプラットホーム」を開発

～東京海上日動火災保険株式会社が「事故時自動連絡支援サービス」に採用～

パイオニアは、車両空間における「総合エンターテインメント」のリーディングカンパニーを目指し、今後広がりが見込まれるコネクテッドカーに向けて“次世代車載機器”と“クラウドサービス”の開発・提案を行っています。

このたび当社は、自動車業界で初めて^{※1}、スマートフォンと自動車向けビーコン端末^{※2}を活用したテレマティクス・ソリューション「クルマ DE ビーコン サービスプラットホーム」を開発しました。本サービスプラットフォームは、当社が提供する自動車向けのビーコン端末を活用することにより、各ドライバーの乗車、運転中、降車などの状況を認識し、利用シーンに合わせたスマートフォンを活用したサービスの提供を可能にします。自動車関連サービスを提供する事業者様は、本ソリューションを活用することで、ドライバーが車を利用するシーンや状況に合わせた情報発信や高度なコミュニケーションを構築することができます。

なお、本ソリューションは、本日(31日)東京海上日動火災保険株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:永野 毅、以下「東京海上日動」)が発表した、ノンフリート(個人)自動車保険契約者向けの新たな「事故時自動連絡支援サービス」(12月提供予定)に採用されています。

※1 2015年8月31日時点、自動車業界において。パイオニア調べ。

※2 アプリックスIPホールディングス株式会社のビーコン関連技術を活用しています。

◆開発の背景

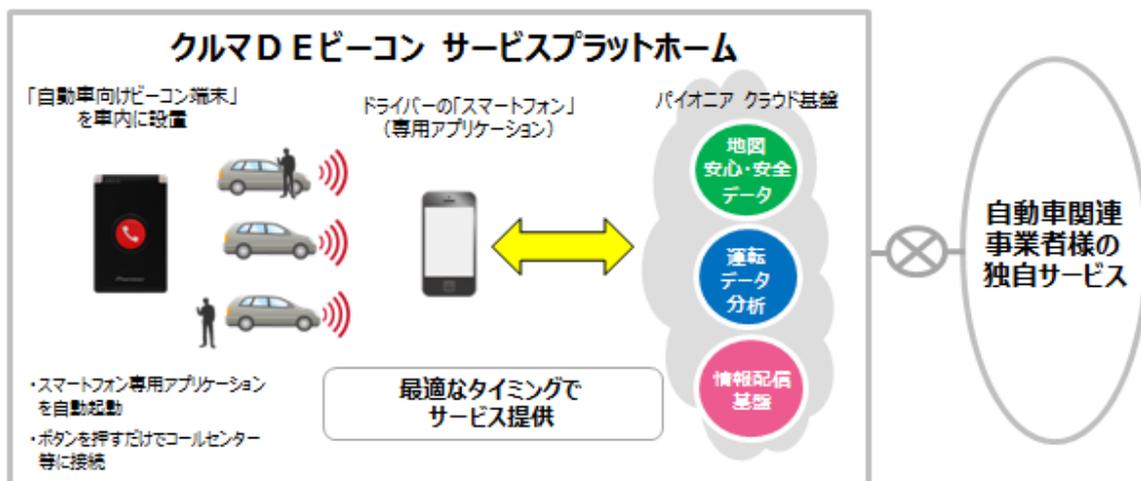
近年、スマートフォンが普及し、さまざまな業種でスマートフォンを活用した幅広いサービスが提供されています。その中で、各サービスをより効果的に提供するために、消費者の行動や利用シーンに合わせた最適なタイミングで提供する手法へのニーズが高まっています。

◆「クルマ DE ビーコン サービスプラットホーム」の特長

本ソリューションは、自動車向けビーコン端末を活用することにより、各ドライバーが車を利用するシーン(乗車、運転中、降車)や位置情報をシステムとして認識することができ、最適なタイミングでのスマートフォンと連携したサービスの提供を可能にします。そのため、スマートフォンだけでは難しいとされていた「サービス提供者による最適なタイミングでの情報配信」や、「ドライバーとサービス提供者間での効率的で継続的なコミュニケーションの構築」を実現することができます。

将来的には、クラウド上の地図データと連携させて、車が走行しているエリアごとに安心・安全に関連するさまざまな情報を配信することも可能です。

- ① 車を利用するシーン(乗車、運転中、降車)に合わせたドライバーへの情報配信
- ② ビーコン端末のボタンを押すだけで、あらかじめ登録したサービス提供者にコンタクトが可能
- ③ クラウド上の行動履歴や地図データを連携させた配信分析や、配信情報の自動生成が可能



◆東京海上日動様での採用事例

ノンフリート自動車保険契約者向けの「保険代理店宛て事故時自動連絡支援サービス」に採用。車内に設置したビーコン端末がドライバーの乗り降りを認識し、事故発生時にスマートフォンを1タップするだけで保険代理店(または東京海上日動事故受け付けコールセンター)へ事故連絡することが可能なサービス。



※サービスの詳細は、東京海上日動様より11月頃に案内される予定です。



専用ビーコン端末

当社は、東京海上日動様と自動車保険向けテレマティクスサービス事業において協業しており、今後も同社のテレマティクスサービスの拡張開発を進めてまいります。

◆今後の展開

「クルマ DE ビーコン サービスプラットホーム」は、さまざまな自動車関連サービス事業者の独自サービスと連携させて、幅広い業界で活用することが可能です。当社は、国内外のロードサービス事業者、整備事業者、カーディーラー事業者などに、本ソリューションの活用提案を行います。